

2014 年 2 月 20 日～ 23 日の活動

14 回目となる今回は、ベトナム中部のトゥア・ティエン・フエ省と、北部のホアビン省で、BAJ や STT のスタッフ、ベトナムにある子会社 LIXIL INAX VIETNAM Corporation (以下 LIXIL VIETNAM)、LIXIL INAX DANANG Manufacturing Co., Ltd. (以下 Danang INAX) から 5 名の従業員、および日本から訪れた 2 名の従業員が、子どもたち約 220 名と授業や実験を通して交流しました。

2 月 20 日 トゥイスワン小学校での環境授業 —BAJ とともに—

トゥイスワン小学校はトゥア・ティエン・フエ省フエ市郊外にある小学校です。ベトナムでは小学校 1～3 年生を対象に「生きる力を伸ばすための活動」という科目があり、各学校が独自に組み立てたプログラムを実施しています。トゥイスワン小学校では、環境教育だけでなく、靴紐の結び方など日常生活の知恵や、溺れた時や火事の際の対処法も教えており、LIXIL が支援している BAJ は、2013 年 11 月からここで環境学習を行っています。子どもたちは、LIXIL のオリジナルテキスト「水について考え、調べてみよう」を用いて、地球上には使える水が少ししかないことや、水は循環していること、水の汚染が健康におよぼす影響などを学んでいます。2 月 20 日の授業には、3 年生 3 クラス合計 105 名が参加しました。

まず、初めて会う子どもたちに LIXIL 従業員が自己紹介を行いました。氏名や家族構成、趣味のほか、住んでいる地域や仕事について話すことで、子どもたちとの距離を縮めました。

その後、ペットボトルを利用したろ過装置を作り、実験を行いました。この装置は、雨水などが地中にしみこむ過程で、汚れがろ過されていく自然界の仕組みを簡易化して再現しています。第 1 回から参加している LIXIL VIETNAM のソンが実験の手順を説明し、初めて参加した Danang INAX のズンとチャウは、実験を行う子どもたちをサポートしました。米のとぎ汁や灰を混ぜた水、煮物の汁など、子どもたちの身近な生活排水をろ過し、色や臭いを比較したり、パックテストで汚染度を計測したりしました。日頃実験をする授業が少ない子どもたちは、汚れた水がろ過装置を通してきれいになっていく様子を真剣に観察し、理解を深めました。

授業に参加した子どもたちからは、「またこの実験をやりたい!」「次はいつ来てくれる?」という声が聞かれ、環境に興味を持つきっかけとなっています。



自分の仕事の紹介



ろ過装置を製作する子どもたち



グループワークを通して交流を深める

2月21日 ラムモンクアン中学校での環境授業 ―BAJとともに―

フエ市から車で一時間の距離にある、海とラグーンに挟まれたフーロック郡ヴィンミー村は、白砂地帯が広がっており、水質の良くない井戸水を生活に使用しています。水の問題に関心が強いヴィンミー村にあるラムモンクアン中学校では、環境クラブを立ち上げています。ニョン校長は、生徒が自ら考えることや、実際に手や体を動かして学ぶことを推奨しており、BAJの活動に共感し、環境クラブとともに活動を始めました。環境クラブでは、2週間に一度、2時間程度のフィールドワークを行い生活用水の問題解決に取り組んでいます。2月21日は、環境クラブに在籍する中学1年生（日本の小学6年生）21名と活動しました。

この日は、LIXIL従業員の自己紹介と、LIXILの環境活動の紹介を行いました。中でも、「緑のカーテン」は生徒たちの興味を強く惹き、学校での取り組みのひとつとして検討されているそうです。その後、生徒から、ヴィンミー村の水質調査や、家を作っている資材の再利用について報告がありました。報告を受けたLIXIL従業員は、水質調査へのアドバイスとして、結果を考察し、近隣での水の使われ方を調査することを提案しました。LIXILは、生徒が行っている活動を尊重し、生徒自身で考えていける教育を行っています。近隣の水質調査の結果は、次の訪問時に報告してくれることになっています。

昼食は、中学校近くの食堂で、米粉の麺と牛肉を用いた名物料理のブン・ポー・フエを生徒と一緒に味わい、交流を深めました。午後は、オリジナルテキスト「水について考え、調べてみよう」を用いたLIXIL従業員による授業を実施しました。水質汚染について、また、それが人間の健康に与える影響、水をきれいに保つ方法を教え、日本での公害に関する話題も紹介しました。その後、ペットボトルを用いたろ過装置の実験を行いました。生徒が持ち寄った排水と、昼食のブン・ポー・フエの残り汁をろ過しました。生徒は実験を通して、土壌のろ過作用で排水の透明度が増すことを学びました。一方で、パックテストを用いて汚染状況を測定することで、ろ過だけでは水が完全にきれいにならないことを確認し、日頃の生活で排水を少なくする工夫が必要であると理解しました。



日頃の環境活動紹介



ろ過されていく様子に興味津々



実験に取り組む生徒を見守るニョン校長
(中央)

2月23日 ディックザオ村でのトイレの授業 —STTとともに—

ディックザオ村は、ハノイから約120km離れたベトナム北部の山岳地帯にある村です。この地域に住む人々は少数民族で、傾斜の急な農地なども利用しながら、独自の言語や伝統習慣を継承して生活しています。4回目となるこの村での授業は、前回参加できなかった子どもたちと青年団90名を対象に行いました。2月23日は、LIXIL VIETNAMのソンに加え、フォンとハンが参加しました。

LIXILが協働しているSTTは、住民の声を受けてトイレの建設を支援しています。建設費用の半額を支援し、残りを各世帯が負担して、建設作業も自分たちで行ってもらうことで、トイレの正しい使い方の周知を進めています。

午前中は、建設したトイレを適切に使い続けてもらうために、オリジナルテキスト「トイレについて考えてみよう」を使った授業を実施しました。子どもたちは、トイレが使用されるようになった歴史的な背景や、トイレの種類、正しい使い方や掃除の仕方を学びました。

午後はトイレについて調査するワークショップを行いました。子どもたちは、集落ごとにトイレの実態を調査し、写真を使って調査結果をまとめ、発表しました。トイレの有無や数、種類はもちろん、「水洗トイレはきれいだが建設費用が高い」、「ドライタイプのトイレは安く設置でき、肥料も作れるが臭いが気になる」という子どもたちの考えを全員で共有しました。



授業では、トイレの使い方など基本的な知識を学ぶ



ワークショップの様子



村民が建設したトイレ

環境教育活動参加者

トゥア・ティエン・フエ省	フエ市トゥイスワン小学校児童 105名	
	フーロック郡ヴィンミー村ラムモンクアン中学校生徒 21名	
ホアビン省	タンラック郡ディックザオ村子どもと青年団 90名	
BAJ	ベトナム事務所	片山恵美子 Ly Ba Khuong (リー バー クオン)
	通訳	Huynh Thi Thuy Tien (フィン ティ トゥイ ティエン)
STT	代表	伊能まゆ
	ベトナム事務所	Nguyen Thanh Tung (グエン タイン トゥン)
LIXIL	CSR・環境経営推進部	小野聡志、夢沼亜沙子
	LIXIL VIETNAM 総務部	Khuat Duy Son (グアット ズイ ソン)
	LIXIL VIETNAM 人事部	Nguyen Thi Thu Huong (グエン ティ トゥ フォン) Nguyen Hong Hanh (グエン ホン ハン)
	Danang INAX 人事部	Dang Nguyen Thu Dung (ダン グエン トゥ ズン)
	Danang INAX 生産部	Tran Dai Chau (トラン ダイ チャウ)